

⑨ 実践した体験談を

社会性、学力、将来の進路等の質問に対する証し、データ等

最初に伝えた、実践した体験談に戻ります（社会性、学力、将来の進路）。子どもの志や希望が明確であることを強調。孤立して行っているわけではないという意味を込め、チアを紹介。

イントロで触れたことの再確認で、これが全国的、国際的な動きであり、教育の本筋、原点、真理であることを紹介。高校卒業資格認定試験制度の合格率は高いこと。最近の大学進学先、就職先を紹介（もちろん、チアとしては、大学進学するかどうかは優先ポイントではありません。でも、選択肢として、進学しようとするならばできるし、実績もあるというレベルの意味です）。

こんな感じで、ざっくり説明していきながら、あとは先方の質問に明るく、優しく、的確に短く答えていけばと思います。

学籍を残すかどうかは、親御さんの判断に委ねています。チア・につぼんとしては、学籍は残した方が利点が多いこともあり、残されてはと思います。でも最終的な判断は委ねますという姿勢です。

利点としては、学校側と摩擦が少ない点があります。ネグレクト・虐待等が問題視されている時世です。チア・につぼんとしては、ネグレクト・虐待等はまったくの犯罪だと認識しています。そうした意味でも、学校側が児童の所在を把握しようとする取り組みも理解できます。また、一人の子どもがいることで、クラスや教員の数が増やせたり、予算額が変わったりする一面もあります。そのあたりは協力しても良いのではと思っています。

一方、ホームスクーラーにとっても、教科書等が無料で取得できたり、スポーツ活動をしたり奨学金をもらう場合に、学籍が必要とされるケースもあります。納税者として、学校のために税金を納めてもいるわけで、学籍があることで子どもたちが受けられる利点を活かすためにも、学籍を残しても良いと考えます。とはいえ、学校と一線を画して、ホームスクーリングを実施するとの思いも理解できますので、最終判断はそれぞれの親御さんに委ねています。

運動会や遠足ほか、いくつかの学校行事への参加をオファーされることもあります。このあたりは二足のワラジをはくことになり、子どもたちが迷ったり、様々な支障が出てきて、この20年、うまくいかないケースがほとんどであったかと思っています。

学校との連絡、家庭訪問等は、これも各親御さんの判断に委ねています。チア・につぼんとしては、慎重にミニマムに…と伝えてきました。欧米では、面談時の子どもたちの同行を始め、厳しく控えているケースが多いです。子どもたちが親のいない場所で説得された

り、迷わされたりすることを防ぐためです。ただし、これも子どもとの単独接触を防ぎつつ、一年に一度とか、伝道もかねて、親あるいは親子で近況報告に向かい、良好な関係を保持しているケースもあります。一方で、「どうぞ、見守っててください」と、一線を引いているご家庭も少なくありません。親が日常生活の様子が分かる写真等を見せて、虐待・ネグレクト児童ではない旨を伝えているケースもあります。そのあたりは、状況に応じて、各ご家庭でご判断いただければと思うところです。もちろん、チア・にっぽんとしても、個別相談等にできるだけ応じて応援していますので、何かご心配なことがあれば、ぜひ連絡ください。

面談中、何か嫌なことを言われたり、理解されなくても、怒ったり、動じたりせず、以前は自分も分かっていなかったなーと思いながら、愛と忍耐と神の御手を思って、スマイルと静けさの中で、でも大胆に貫く姿勢で静まる。あとは、相手のニーズへのフォローにまわる（教育委員会なら退室する）という感じでしょうか。

総論としては、祈って導きのままに、大胆に愛と勇気をもって向き合うことが重要だと思います。

下記、具体的な体験談もご参考に。

- 法的な環境整備進む！（マガジン 46 号より）
- 衆参全国会議員への報告時に用いたチア・にっぽん封筒
- 教育機会確保法関連の議連総会のレポート（NL173 号より）
- 議連総会への提出資料（NL173 号 P9～11 より）
- ホームスクーラーの進路（マガジン 44 号より）